

審査の結果の要旨

氏名 野口 都美

本研究は、欧米で指摘されつつある歯周病と虚血性心疾患との関連について、我が国においても同様に認められるのかを検討するため、金融保険系企業職員の男性を対象として、5年間の追跡調査より以下の分析を行った。

1. 横断分析として、2004年の質問票調査および健診を受診した男性職員7,121人のうち欠損値のない36歳以上59歳以下の者4,207人に対し、歯周病の虚血性心疾患(狭心症と心筋梗塞)に関するロジスティック回帰分析を行った。結果より、年齢、BMI、喫煙習慣、高血圧、糖尿病、高LDL-C血症で調整したオッズ比は、喪失歯5本以上ありは2.14(95%信頼区間: 1.20-3.82)、歯周炎ありは1.55(0.88-2.74)、歯周病自覚症状スコアは1.29(0.98-1.72)であった。歯周病の心筋梗塞に関する調整済みオッズ比は、喪失歯5本以上ありは1.47(0.65-3.29)、歯周炎ありは2.46(1.13-5.35)、歯周病自覚症状スコアは1.50(1.03-2.18)であった。
2. 縦断分析として、2004年に虚血性心疾患(心筋梗塞と狭心症)である者を除き、5年間の追跡期間中に退職または健診未受診による脱落者を除く、36歳から59歳の男性職員3,151人に同様のロジスティック回帰分析を行った。結果より、歯周病の虚血性心疾患に関する調整済みオッズ比は、喪失歯5本以上ありは2.08(1.02-4.26)、歯周炎ありは1.56(0.78-3.14)、歯周病自覚症状スコアは1.35(0.94-1.93)であった。歯周病の心筋梗塞に関する調整済みオッズ比は、喪失歯5本以上ありは2.28(0.86-6.07)、歯周炎ありは2.20(0.82-5.89)、歯周病自覚症状スコアは2.10(1.29-3.41)であった。

これより、36歳から59歳までの男性労働者において、歯周病と虚血性心疾患に関連があることが認められた。なかでも、5本以上の喪失歯は虚血性心疾患と関連し、歯周炎があることや歯周病自覚症状は心筋梗塞と関連していた。

以上、本研究から歯周病が虚血性心疾患と関連し、この関連は他の主要な危険因子とは独立して認められ、歯周病が虚血性心疾患の罹患リスクを高める可能性のあることが明らかとなった。これは、我が国における縦断的な報告としては最初のものであり、歯周病と虚血性心疾患に関する知見の蓄積に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。